

県 広 報

# とやま

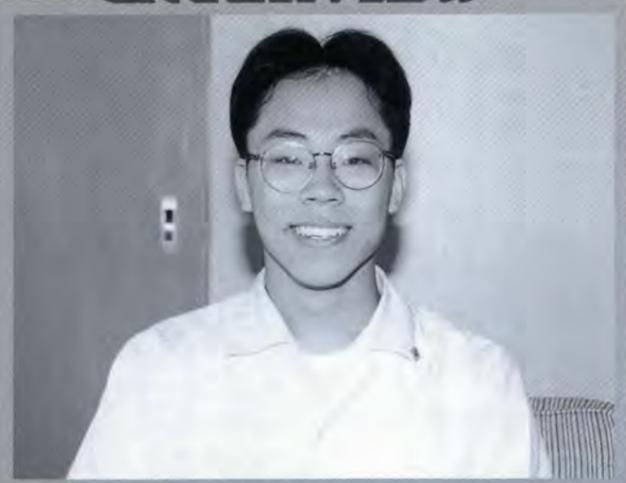
TOYAMA PREFECTURAL REPORT

特集/シャットアウト! 0157

～食中毒から身を守るために～



ひと  
とやま  
遊学感



数学の未知なる領域に挑む

国際数学オリンピック大会日本代表 三枝 洋一さん

「出場決定の通知をもらったときは、正直言ってみるとびっくりしました」と語るのは、七月にアルゼンチンで開催される第三十八回国際数学オリンピック大会に日本代表として出場する富山中部高校三年の三枝洋一さん。富山県内から同大会へは初の出場となります。

中学一年で数学の面白さに魅せられた三枝さんは、中学二年を終える頃には、高校三年までに習う内容を全て独学で習得。その後は、もっぱら自ら問題をつくって楽しんでいました。その日の授業をネタに、骨組みや論理展開を自分で決めて難しい問題に仕上げられます。結構楽しかったですね。

来年は受験を控えています。が、受験数学は好きではないと云う。パターンを記憶し、それを機械的に適用するだけの受験数学からは、あまり発展性を感じません。その点、学問としての数学は、まだまだ明らかになっていない部分がある。と、とても面白いんですよ。

授業科目で好きなのは現代文。「記憶力ばかりが試される科目が多いなかで、現代文は最も思考力が重視される科目だ」と思います。ある意味で、数学に通じる点がありますね。また、三枝さんは将棋部の主将も務め、六月の県大会では団体六連覇の原動力として活躍しました。「今は、数学と将棋に熱中していて、学校の勉強はあまりやっていないんですよ」と笑みを漏らします。

さて、数学オリンピックでは、世界七十数か国から集まった四百人以上の少年少女たちが、二日間にわたって超難問に挑みます。両日とも三問ずつが出題され、制限時間は四時間。「思考力と直観力がうまくかみ合えばいいのですが。でも、出るからにはベストを尽くします」と意気込み十分の三枝さん。将来のことは、はっきりとは決めていないようですが、数学にはずっと関わり続けていきたいとのこと。「まずは大学で、もう一歩つっこんだ数学をやってみたいですね」と語るその目は、数学の未知の領域への期待感に溢れ、頼もしささえ感じさせました。

のどかな砺波野を眺めながらリフレッシュ

医王山県立自然公園

レポーター：橋場律子さん（富山女子短期大学）  
（表紙の人）



▲のどかな砺波平野を望む（国見付近）



◀バーベキューハウスやコテージなども整備

今回私が訪れたのは、砺波平野が一望できる優れた風景地として人々に親しまれている福光町の医王山県立自然公園です。医王山は、昔から「薬草の山」として知られ、生息する薬草はセンブリやオウレンなど五百五十種あまりに上るそうです。薬の仏である薬師如来の別称、「大医王仏」がその名前の由来であるのも頷けます。平成三年には、IOXアローザがオープン。スイスのリゾート地「アローザ」と友好スキー場提携を結んでいて、六人乗りのゴンドラリフトとスイス風のコテージが売り物のお洒落なスキー場になっています。さて、スキー場管理棟から車で走ること三十分、キャンプ場やコテージ、バーベキューハウスなどが整備された国見（標高約七百メートル）に到着。展望台から望む砺波平野は圧巻で、散

居村の家々がまるで湖に浮かぶ無数の小島のように見えました。快晴の日には金沢市内や立山連峰、さらには能登半島まで見渡すことができます。また、この辺り一帯には、富山県の置県百年記念事業として整備された「ふるさと歩道」をはじめたくさんの遊歩道があり、ハイキングコースとしても最適。渓谷や滝、岸壁など変化に富んだ地形や、ブナやコナラなど落葉樹の鮮やかな緑が目を惹きつけてくれることでしょう。皆さんも、ふくよかな緑に抱かれた医王山県立自然公園で思いっきりリフレッシュしてみませんか？

問合せ 福光町観光協会  
0763-52-1111(代)  
ゴンドラリフト運行日  
●7月29日～8月31日  
●10月の土・日曜 祝祭日



◀スイス風のコテージが立ち並び（IOXヴァルト）

7 CONTENTS

撮影/赤羽仁諭(富山県写真家協会会員) 表紙  
とやま遊学感/ 表2  
医王山県立自然公園  
ひとアズとやま/ 1  
国際数学オリンピック大会 日本代表 三枝洋一さん  
クロースアップ/ 2  
①キエミエトキョウヤマ 2  
②ロシア沿海地方友好代表団来県 4  
③スウェーデン国王夫妻来県 4  
特集/ シャットアウト! O157 4  
食中毒から身を守るために  
PINUPPTOYAMA 8  
写真/谷川昭夫(富山県写真家協会会員)  
詩/若栗清子(富山現代詩人会会員) 10  
ふるさとみである記(滑川市) 10  
①滑川市新川古代神保存会 10  
②ほたるいかミュージアム 12  
③滑川かずみ野健康茶 12  
エッセイ/玉井晶夫 12  
(万葉集全十巻朗唱の会企画運営部長)  
トピックス/ 2000X年に県民が燃える 13  
知事懇談会で素案発表 14  
県からのお知らせ 16  
暮らしのアドバイス 16  
とやま水紀行/ 表3  
杉沢の沢スギ林(入善町) 1

平成9年5月11日～平成9年6月10日

- 5月13日 TOYAMA就職ガイダンスin大阪
- 5月20日 キてミてトークTOYAMA（～22日）  
第48回富山県植樹祭
- 5月22日 平成9年度とやま賞贈呈式及び記念講演会  
富山県・沿海地方友好提携5周年記念事業（～27日）
- 5月25日 スウェーデン国王夫妻来県（スウェーデン現代工芸展）
- 6月1日 富山～函館便毎日就航記念式典
- 6月5日 「環境の日」記念行事
- 6月7日 富山県美術展開会式



▲ステグニー副知事が記念の絵画を贈呈

なお、県では十一月、沿海地方に友好訪問団を派遣し、友好交流・協力関係の一層の促進を図っていくことにしています。



ニ副知事は、「沿海地方と富山県が相互に努力し理解しあうことで、今後ますます平和と信頼が築かれるだろう」と述べました。富山市の高志会館に場所を移して行われた記念レセプションには、関係者ら約百人が出席。現在までの両県・地方の交流の歴史を振り返りながら親睦を深めました。

このほか、友好提携五周年の記念行事として、二十四日に県民会館で沿海地方の少女少女バレエ団と和田朝子舞踊研究所の合同公演が開催されたほか、二十四日、二十五日には、サンフォルテでロシア映画祭やフレンドリーセミナーが開かれ、料理教室などで交流を深めました。



▶ロシアの工芸品「マトリョーシカ」の絵付教室

# 知・ズ・アツプ

## いつそこの平和と信頼の構築に向けて

ロシア沿海地方友好代表団来県（5月23日）

富山県とロシア沿海地方の友好提携五周年を記念して五月二十三日、ステグニー副知事を団長とする友好代表団が来県しました。代表団六名は県庁正面で大勢の職員の出迎えを受けた後、特別室で中沖知事らと懇談。知事は、「五周年を機に両県・地方の絆がより強まり、友好交流の裾野がますます広がることを望む」とあいさつ。これに対しステグ



▲ナチュラリストの説明に耳を傾ける（立山室堂）

## ターゲットを絞ったPRを

キミミトークTOYAMA（5月20～22日）

首都圏のテレビ・ラジオ局のアナウンサーやディレクターを招いて県内を視察してもらい、富山県の印象やイメージアップ方策などを語ってもらった「キてミてトークTOYAMA」が、五月二十日から二十二日まで行われました。九名の参加者は、まず空港で富山県の概略説明を受けたあと立山室堂へ。現地はいくくの雪まじりの天候でしたが、参加者はありのままの大自然を肌で感じていた様子でした。翌日からは、五箇山や八尾町、高岡市など希望のコースに分かれて視察。二十一日に行われた知事との意見交換会では、「もっとPR対象を絞ったイメージアップ方策を」という声が多く聞かれ、特に若い女性にアピールすることの必要性やそのための数々の提案がなされました。また、合掌造り集落や立山博物館「まんだら遊苑」などを称賛する声のほか、「インターネットを活用して、県のホームページにケイズを設けたら」という意見も聞かれました。



▲合掌の里を視察



▲活発にイメージアップへの提案がなされた知事との意見交換会

## 文化活動を通じた活発な交流を

スウェーデン国王夫妻来県（5月25日）



スウェーデンのカール十六世グスタフ国王とシルビア王妃が五月二十五日、富山市で開催中の「スウェーデン現代工芸展」を見学するため、外国の君主として初めて来県しました。同工芸展が開かれている富山市民プラザ前に到着した国王夫妻は、中沖知事、正橋富山市長の出迎えを受け、両国の小旗を打ち振るボーイスカウトや大勢の市民の歓迎に笑顔で応えました。市民プラザ内では、母国を代表する作家たちのガラス工芸や木工芸の作品を一つひとつ熱心に見学。国王は、展示スペースが作品群と見事に調和していることに特に感心されていました。



▲作品を一つひとつ熱心に鑑賞

この後、国王夫妻は、富山新聞会館で中沖知事、正橋富山市長、佐藤高岡市長らと懇談。知事が、十月に青年・女性の翼の団長としてスウェーデンを訪れることを説明すると、国王は現地での活動内容などについて詳細に質問されました。また、来年ストックホルムで「欧州文化首都ストックホルム1998」が開催されることに触れ、県および富山、高岡両市の参加を要請しました。今回の来県が、文化活動などを通じた富山県とスウェーデンの交流の活発化につながるものと期待されます。



▲中沖知事らが出迎え

# シャットアウト! O157

食中毒から身を守るために



▲腸管出血性大腸菌 O157

昨年五月、岡山県での集団発生に端を発したO157は、その後またたく間に全国に広がり、これまで一万人を超える大量の患者が発生して、十三人が亡くなっています。今年に入ってからからは、集団発生は減少しているものの、個々の家庭での発生例が数多く見られるようになりました。また、感染ルートの解明が極めて困難であることから、地域社会にまで不安が広がっています。とはいっても、O157も他の食中毒菌と同じように加熱や消毒で死滅します。つまり、正しい知識を持って対策を施すことで、十分予防が可能なのです。ここでは、O157の正体や感染を防ぐための取り組み、家庭での食中毒予防法などについて紹介します。

## O157の正体

### ▼O157は大腸菌の一種

大腸菌は、家畜や人間の腸内にいる大きさ一〜二ミクロンの細菌です。ほとんどは無害ですが、中には下痢や腹痛を起こさせるものがあり、これを病原性大腸菌と呼んでいます。大腸菌は、細胞の表面にある糖脂質の型である「O抗原」により分類され、O157は百五十七番目に見つかったO抗原を持つ大腸菌です。

▼保健所における細菌検査



壊し、血便や下痢を引き起こします。これが、「腸管出血性大腸菌」と呼ばれる所以です。特に、乳幼児等では、腎臓や脳に大きな障害をもたらすこともあるので注意が必要です。

### ▼強い感染力を持つO157

O157は感染力が強く、わずか百個程度の菌でも感染します。また、病原菌に汚染された物を食べて感染するだけでなく、感染者の便に排出された病原菌が、ほかの人の口に入って感染（二次感染）することもあります。

## O157に対する取り組み

### ●4つの柱に基づく総合的な対策

県では去る五月にO157等腸管出血性大腸菌対策連絡会議を開催し、次の四つを柱とした対策により、予防の徹底を図ることにしました。

#### ①正しい知識の普及啓発

予防のためのリーフレットの全戸配布のほか、一般県民や給食関係者を対象とした研修会の開催、さらには、各保健所に「O157ホットライン」（七頁別表）を設置し、県民からの質問や健康相談に応じるなど、正しい知識の普及に努めています。

#### ②検査体制の充実

食肉・野菜など一般に流通する食品や学校等集団給食施設で提供される食品等の検査を実施していま



▲O157対策連絡会議（5月28日）

す。また、家畜畜産物の疾病検査の強化や、給食調理員の検便等の実施により、原因の究明や感染防止に努めています。

#### ③衛生管理の徹底

保健所の食品衛生監視員による集団給食施設等の一斉点検や、その他の食品営業施設の監視指導を充実します。また、学校給食施設も自ら日常点検や施設・設備を改善することにより、大規模な発生の防止に努めています。

#### ④医療体制の充実

診断に要する時間を短縮するための検査方法を検討するほか、医療機関との連携を密にします。また、重症化対策として、小児のHUS患者の受入医療機関を確保し、発生時の診断・治療体制の確立を図っています。

### ●集団給食施設における予防対策

O157の集団発生を防ぐためには、学校等の集団給食施設での取り組みが最も重要です。県教育委員会では、今年度から、新たに県内の学校給食調理員全員を対象に衛生的な調理方法の研修を実施しているほか、調理場の床面を乾燥し殺菌が繁殖しにくい状態に保つ「ドライシステム」を導入するよう指導しています。

# 家庭での食中毒予防法

## ポイント1 食べ物の購入

●肉や魚、野菜などの生鮮食品は、新鮮なものを購入する。また、表示のある食品は、消費期限などを確認する。

●生鮮食品は一番最後に買い、寄り道をせずまっすぐ帰る。

## ポイント2 家庭での保存

●冷蔵等が必要な食品は、持ち帰ったらすぐ冷蔵庫に入れる。

●冷蔵庫や冷凍庫に食べ物詰め過ぎない。

●冷蔵庫の温度は、細菌の増殖が遅くなる10℃以下に。また、冷凍庫の温度は、細菌の増殖が停止するマイナス15℃以下に。(低温でも



食中毒というと、飲食店などでの食事が原因と思われがちですが、家庭の食事でも多数発生しています。ただ、発症人数が少ないために、寝冷えや風邪と思われている場合が多いのです。日頃から次のポイントをチェックし、食中毒を予防しましょう。

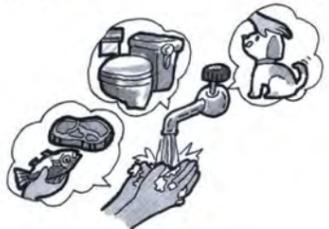
## ポイント3 調理の下準備

●肉や魚を切ったまな板や包丁は、使用後直ちに流水、洗剤で洗い、熱湯を通すようにする。(できれば、肉用、魚用、野菜用を分けて使う。)

●室温での解凍は危険。冷蔵庫の中で解凍するか電子レンジで急速解凍する。

## ポイント4 調理中

●調理前には必ず手洗いし、調理中でも、  
①生ものにさわったとき、  
②トイレにいったとき、  
③動物にさわったとき、  
などは手洗います。  
●料理は十分に火を通す。(食中毒菌を殺すには、「食べ物」の中心温度が75℃で1分間)が目安。)



## ポイント5 食べるとき

●食事の前には手を洗う。  
●温かい料理は65℃以上で、冷たい料理は10℃以下で食べるようにする。



## ポイント6 残った料理

●残り物は冷蔵庫に保存し、温め直すときは十分に火を通す。  
●時間が経ち過ぎていたり、少しでも怪しいと思ったら、口に入れずに捨てる。



**0157ホットライン** -----

0157についての問い合わせにお答えするほか、0157に起因する患者・家族の心の悩み等の相談を受け付けています。

保健所名	電話番号	保健所名	電話番号
高岡保健所	0766-21-9411	上市保健所	0764-72-1234
黒部保健所	0765-52-1224	魚津保健所	0765-24-0357
八尾保健所	0764-54-3171	小杉保健所	0766-56-2666
氷見保健所	0766-74-1780	福野保健所	0763-22-3511
小矢部保健所	0766-67-1070	富山市保健所	0764-28-1152
県庁健康課	0764-44-9085	県庁業務食品課	0764-44-9086

電話受付時間は、毎週月～金曜日の8:30～17:15まで

**インターネットによる啓発** -----

●富山県のホームページを利用して、0157等腸管出血性大腸菌感染症の予防等についての啓発を行っています。(ホームページアドレス)  
\*富山県ホームページ  
[http://www.pref.toyama.jp/]

食中毒は、一般に初夏から初秋にかけて多発し、七月から九月の発生件数が全体の約五割を占めています。食品がいたみやすくなるこれからの季節は、①清潔(菌を付けない)、②加熱(菌を殺す)、③迅速(菌が繁殖する時間を与えない)の三原則を守り、食中毒の発生を未然に防ぎましょう。

徹底した衛生管理のもとでの調理作業



児童生徒たちの清潔、迅速な配膳



また、各集団給食施設では、作業前、作業中、作業後に分けて点検項目を設け、衛生管理を徹底。食材の鮮度の確認や作業区分ごとの手指の消毒はもちろん、食品の温度管理、調理終了から配膳までの時間管理、返却残菜の適切な処理など、多岐にわたるチェックにより万全を期しています。さらに、食材と調理済み食品を二週間保存し、万一の場合の原因究明等に備えています。

# 症状が出たら速やかに医療機関へ

0157等腸管出血性大腸菌感染症は、全く症状がないものから軽度の下痢、激しい腹痛、頻繁な水様便、著しい血便と、その症状は、他の様々です。これらの症状は、他の食中毒等と似ているため、検便により原因菌を調べる必要があります。

また、患者の六～七割がHUSを併発しますが、早期に治療を開始することで、重症化を防ぐことが可能とされています。疑わしい症状が出たら、速やかにかかりつけ医の適切な診療を受けてください。  
軽度の場合は通院による治療も可能ですが、治療を途中でやめると再発や二次感染の原因になるので注意が必要です。  
症状が重度の場合やHUSの合併が疑われる場合は、かかりつけ医から入院治療が可能な病院を紹介する万全の医療体制が確保されていますのでご安心ください(下図参照)。

小児のHUS患者受入が可能な医療機関(9年6月20日現在)

### 高岡医療圏

- 高岡市民病院
- 厚生連高岡病院
- 済生会高岡病院
- 中村記念病院

### 富山医療圏

- 厚生連滑川病院
- 県立中央病院
- 富山市民病院
- 済生会富山病院
- 富山赤十字病院
- 富山医科薬科大学附属病院
- 国立療養所富山病院
- 八尾総合病院

### 新川医療圏

- 黒部市民病院
- 富山労災病院

### 砺波医療圏

- 市立砺波総合病院
- 北陸中央病院
- 公立井波総合病院
- 城端厚生病院



流れて  
あふれて  
はじけて  
千年の思慕と  
千年の寂寥を  
一瞬に実らせる  
激しい水の意志  
心と心の落差を  
ひといきにうめる  
美しい情熱  
水は決してあきらめない  
水は決して迷わない

見ているだけで  
髪が濡れる 肌が濡れる  
見ているだけで  
胸が染まる 恋が染まる

**PIN UP TOYAMA**  
ピンナップとやま

ふるさと  
ふたば

記

# 滑川市

人口 / 32,485人  
面積 / 54.61km<sup>2</sup>  
(平成9年5月1日現在)

**〈滑川市の概要〉**  
春の海を彩るホタルイカ、行田公園に乱舞するホタル、そして環境庁指定「星空の美しい街」。滑川市は光をテーマに街づくりを進めている。  
来年は、「ほたるいかにミュージアム」のほか、富山湾の深層水を健康増進に役立てる「深層水体験施設」や「道の駅」もオープン予定。滑川の「文化」「健康」「観光」を県内外にアピールする。



▲市民の創作手踊りによる街流し（ふるさと新川古代神まつり）

## 伝統ある盆踊りが 街中を練り歩く

滑川市新川古代神保存会

「新川古代神の特徴は、小気味よいリズムと、松明、扇子などの小道具を使った踊りですね」と語るのは、新川古代神保存会顧問の野末文博さん。同会では、約三十人のメンバーが夏場を中心に市内各地で舞台踊りを披露するほか、市内の小學生に踊りを教え、保存継承に努めている。  
古代神の名は、約三百年前に実在した「古大仁」というお坊さんに由来する。お盆の夕暮れ時に、松明と提灯を手にお墓に霊を迎えに行った古大仁の様子が盆踊りに形を変えて伝えられたものだという。「現在は、三種類の盆踊りと九種類の舞台踊りが伝承されています。中でも、火のついた松明を持つ踊りは、全国的にも極めて珍しいんです」と野末さん。また、盆踊りは、かつて男女の出会いの場であったため、歌詞も雰囲気や和ませるユーモアたっぷりなものが多いとか。  
さて、真夏の夜のイベント「ふるさと新川古代神まつり」では、八月二日に浴衣姿の男女が創作手踊りで街流しをする。「街流しには、毎年約千二百人の市民が参加します。また、我々保存会は、舞台踊りを行う予定ですので、ぜひご覧いただきたいですね」と野末さんは意気込み十分。今年も新川古代神のリズムと人々の熱気が滑川の街を包み込むことだろう。



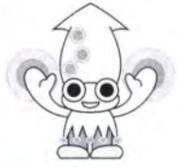
▲野末文博さん



▲たいまつを使った勇壮な舞台踊り

## 神秘的な光をテーマに 来春オーブン!

ほたるいかにミュージアム



「幻想的で神秘的に満ちた光」をテーマにほたるいかの様々な魅力を紹介する「ほたるいかにミュージアム」が来春、滑川漁港西にオープンする。「四トンの円形水槽の中でホタルイカの神秘的な発光を見ることができるとですよ」と語るのは、ミュージアムの管理運営のために設立された(株)滑川WAVE専務取締役の畑英治さん。  
同ミュージアムでは、このほかに大型スクリーンの映像や音響の中でホタルイカの光をファンタジックに体験することができる「ミュージアムシアター」や、不思議な生態を紹介する「ほたるいかに十怪」などが楽しめる。「見学者に料理方法を紹介するなど、ホタルイカの魅力を目、耳、舌で味わってもらえるように工夫が凝らされています」と畑さん。



▲ほたるいかにミュージアム完成予想図とマスコット(右)



▲畑 英治さん

え荒天の場合は欠航となるため、かねてから通年型観光施設建設が望まれていた。「このミュージアムの建設を機に、交流人口が増え、まちおこしが大いに進むことを期待したいですね」と熱く語る畑さん。  
春の味覚として県民に親しまれているホタルイカ。そのさらなる魅力を発見できる同ミュージアムの完成を心待ちにしたい。

## 健康茶で この夏を乗りきろう

滑川かずみ野健康茶

滑川山々に自生する野草などから作った「滑川かずみ野健康茶」が、人気を集めている。  
「昨今の健康ブームに着目して、手作りの健康茶を製造してみようと平成三年にスタートしたんです」と語るのは、滑川市農村婦人研究会代表の金川知恵子さん。



▲金川知恵子さん

恵子さん。同会では、毎年六月頃に滑川や上市の山間部で採取したクマザサ、ドクダミや、各家庭で栽培しているアオシソ、トチュウ、ハブソウを原料に年間三千袋を生産。「集めた原料は自然乾燥させますが、ゴミが混ざらないよう丁寧に洗いますが、それが大変ですね」と金川さん。取材当日は、茶葉の袋詰めが最も細かく裁断し、ブレンドした茶葉をスプーンでティーパックに一つひとつ丁寧に入れる姿には、健康茶への強い愛着が感じられた。



▲茶葉のバック詰めが大忙し



▲自らの手で原料を採集

さて、クマザサには血液を浄化する働きが、ドクダミには整腸、利尿作用があるなど、ブレンドされている茶葉には、それぞれに効能がある。「葉草というと、苦そうイメージですが、ブレンドを調整し、とても飲みやすく仕上げているんですよ」と語り語る金川さん。ホットでもアイスでも美味しく飲める健康茶で、この夏を乗り切ってみてはいかがだろうか。

# 200X年に県民が燃える

～「200X年 県民が燃えるプログラム知事懇談会」で素案発表～



▼プログラム素案のできばえをボードで評価

▲紙芝居を用いたユニークな発表



県民を主体とした二十一世紀の県づくりのプログラム策定に取り組んでいる「200X年 県民が燃えるプログラム委員会」と知事との懇談会が五月十日、とやま自遊館で行われました。県側からは、中沖知事ほか県幹部が出席。委員会の四つの分科会が、あわせて六つの素案を紙芝居を用いて次々に披露しました。発表終了後、知事は「斬新な発想に感心した。今後は、実現に向けての方法論についてもご提案いただきたい」と締めくくりました。以下、分科会毎に発表した素案の概略を紹介します。

## ＜魅力創造分科会＞提案

### ●「200X年のたいまつパレード」

火の国熊本阿蘇山麓で採火した炎を200X年の聖火リレーで富山県へ。それはやがて日本最大規模のたいまつパレードに引き継がれる。大型焚き火に点火された後は、趣向を凝らした県民参加型イベントを夜通し展開。冬の暗さを打ち破るこの仕掛けを通じて、二十一世紀の富山に求められる楽しさや面白さを発見する。

### ＜暮らし安心分科会＞提案

### ●「リアフリーの街・そのいところを探そう！」

県民が「いいところ探検隊」を編成。障害者等になつたつもりで実際に街に出て日常生活を体験し、街に潜む「優しさ」を発見する。そして、これらの発見を様々な媒体や体験交換会を通じて、県民に広く広報する。みんなが街の「いいところ」に気づけば、リアフリーの街づくりの輪も大きく広がっていく。

### ●「ボランティア・ステーション構想」

ボランティア活動への関心が高まっている今こそ、「ボランティアは自発的な意志に基づく」という原点に立ち返り、そうした自主性を引き出すためのきっかけづくりが必要。そこで、入門者、初心者、気軽に立ち寄れる「ボランティア・ステーション」を設置し、ボランティア活動の場の発掘、志望者に対するコーディネート等を行う。

# あらかた 新しき、素晴らしき、 ふるさとづくりイベント 「朗唱の会」

万葉集全20巻朗唱の会企画運営部長 玉井晶夫



者や参加者のみなさんと力を合わせて実現にこぎつけ、最後にこの一首を全員で朗唱したときの感激は忘れられない。その「万葉集全二十巻朗唱の会」が、この度「第一回ふるさとイベント大賞」



「新しき年の初めの初春の今日降る雪のいやしけ吉事」。万葉集全4516首の最後を締め括る大伴家持の歌である。県のイベントシナリオ募集に寄せられた、万葉集全二十巻を六十時間かけて朗唱しようという企画を、市やいろいろな協力の

の大賞を受賞した。この賞は、創意と工夫により、活力あふれる個性豊かな地域づくりに貢献した優れたイベントを表彰するとあり、第一回の感激がよみがえるような喜ばしさがある。

万葉集全全部を六十時間かけて歌い続けるという誰も考えつかないような発想と、多くの市民が参加していることが評価されての受賞だが、朗唱の会はまさに万葉のふるさとづくりをすすめる市民総参加型の素晴らしいイベントである。それだけでなく、万葉衣装を着て、舞台上に立ち、思うように朗唱できるというところにも良さがあると思う。高岡という土地は、どうしても閉鎖的になりがちだし、祭りといつても高岡御車山祭に代表されるように、観るイベントが多い。そこに、舞台の上で自由に自己表現ができ、誰もが参加できるというイベントができたのである。これは意義深いことだと思う。

さらに、多くの人々が生涯学習ということに関心を持ち始めていた時代背景がある。いろいろな文化や芸能にふれて、人生をより豊かにしたいという思いがあり、これも朗唱の会を盛り上げている一因だろうと思う。万葉集というのは、日本が世界に誇る文学であり、同時にふるさと高岡への理解と愛情を深めてくれる歌集である。そういう万葉集が与えてくれる心の豊かさこそ、現代の人間が求めているものなのだろう。万葉の時代は、あまりにも速い時代すぎて、人々がいったい何を思い、どのように暮らしていた



のか、イメージすることが難しいが、そこにロマンを感じる余地があるとも言える。

こうして考えてみると、「万葉集全二十巻朗唱の会」とは不思議な魅力をもった新しいイベントである。全二十巻を三昼夜かけてぶつ通しで歌いあげるといって「ほんまにやるがけ」的なバカバカしさで、万葉集という遠い時代の歌人たちの素晴らしい歌にふれるという高い文化性を併せ持っている。イベントとしての独創性と、本物の文化にふれる豊かさ。そして、それを市民参加型で行うのだから、やはり全国に誇ってもいいと思うし、もっとも市民に根づいていくよう続けることが大切だと思う。

万葉集最後の一首は、万代予祝（このさきの素晴らしい出来事を予め祝うこと）の思いがこめられているという。それを大伴家持は最後の一首に据えた。今年も、来年も、ずっと、高岡の地で「新しき」の歌が朗唱されるたびに、さらに活力あふれる個性豊かなまちになっていけば、と思っている。

## ＜人・コミュニケーション分科会＞提案

### ●「トヤマランドステイ」

県内市町村を独立国と想定。子どもたちを中心とする国民が、お互いに他国にホームステイしながら用意された体験メニューに参加（ランドステイ体験）し、その参加頻度が相手国より下回った場合は、特産品を献上するというシステムをつくる。まずは県内の交流の促進に狙いを絞り、やがては県外や国外へもその輪を広げていく。

### ＜快適環境分科会＞提案

### ●「木の美銀行構想」

「木の美銀行」を開設し、木の実を通貨にした預金制度をつくる。預金の払戻しは、積雪に強く維持管理しやすいドングリの苗木や花の苗。この制度を基本に、公共用地への植樹や、私有地を預かって緑化する土地信託事業なども実施する。二十一世紀の富山県が、真に日本一の花と緑の県となるための息の長いプログラム。

### ●「200X年 県民が採めるプログラム」

敢えて県民が「採める」ようなテーマを設定して県民同士の議論を促し、それを踏まえた模擬住民投票を行う。投票にいたるプロセスとして討論の場を積極的に設け、県民の間に議論を喚起することがポイント。とかく口が重いといわれる富山県民に、「県民自らが考え、議論することの大切さ」を訴える。

委員会では今後、これらの素案をさらに検討し、この秋、県民に発表して意見をいただくことにしています。



# 抗菌加工プラスチック製品の効果は？

**Q** 最近、「抗菌加工」と表示されたプラスチック製品をよく目にしますが、どの程度の効果があるのですか？

**A** 「抗菌」という言葉にははっきりとした定義はありませんが、最近商品にうたわれている「抗菌」の意味は、微生物の繁殖を抑える、あるいは微生物の繁殖を抑えることによってヌメリ・黒カスを抑えるといったことのようなのです。消費生活センターでは、抗菌加工プラスチック製品（まな板、洗面器、食器洗い用スポンジ、ゴム手袋、水切りカゴ、風呂イス）について、一般細菌の増え方を簡易テストしました。

その結果、やや効果が見られたものはありませんが、抗菌加工されていないものと大きな差はありませんでした。また、五人のモニターに一定期間使用してもらい、抗菌加工されていないものと比べてみましたが、効果は実感できないようでした。

消費生活センターが行ったアンケートによれば、「抗菌加工製品」に次のようなイメージを持つ人がいました。

◆スポンジ：汚れが残っていても雑菌が繁殖しにくい。

◆歯ブラシ：口の中の雑菌を抑える。

◆三角コーナー：中のゴミの腐敗防止効果がある。

しかし、実際はこのような効果は期待しない方が良いでしょう。抗菌加工プラスチック製品の抗菌性、安全性などに対する基準は今のところありません（繊維製品には業界内での自主基準あり）。「抗菌加工」と表示してあっても、過度な効果は期待せず、無加工品と同様、普段のこまめな手入れが必要です。

相談は、県消費生活センター、電話0764(32)92333、高岡支所、電話0766(25)2777

## 編集後記

★将棋の羽生名人がランプの神経衰弱で一般人に負かされるのをテレビで見たことがある。そのことを数オリンピック日本代表の三枝さんに話したところ、「僕も神経衰弱は弱いんです」との返答。二人とも無機質な記憶は苦手らしい。記憶力が弱い自分にはホッとする事実だが、「創造力で勝負だ！」と声を大にして言えないところもまた悔しい。(M・K)

★杉沢の沢スギ林は本当に不思議なところだった。本来同居するはずのない植物たちがここでは隣り合って生育し、切り倒された沢スギの幹には全く別の植物が根付いていた。自然のパワーにただただ感服。神秘の世界を探検しに皆さんも杉沢を訪れてみてはいかがでしょう。(M・I)

★新川古代神保存会の野末さんは、十七歳の頃から音頭取りを始められたという。取材を進めるうち「民謡が好きで好きでたまらない」という思いがひしひしと伝わってきた。私も習い事をしていくが、続けるだけで精一杯。だから、何かに一生懸命取り組む人との出会いが最高の活力剤となる。野末さんたちの元気をちよびりいただいたり、私は今日もはりきってお稽古に向かえるのである。(Y・I)

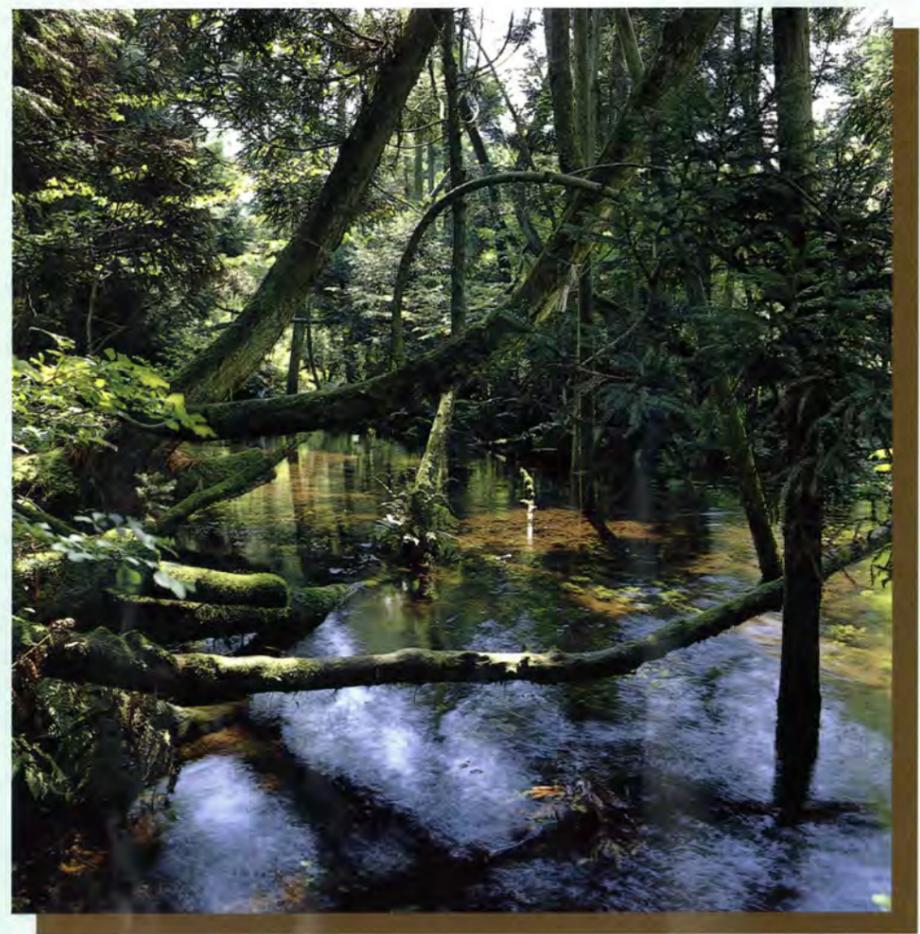
今月号で掲載したPIN UP TOYAMAの写真を抽選で5名の方にワイド六ツ切(25×18センチ)でプレゼントします。希望される方は、官製ハガキで下記の様式でお申し込みください。平成9年8月23日消印有効です。

930	富山県広報課 写真プレゼント 7月号係あて
氏名	年齢
住所	
電話	
本誌を読んだ感想	

# とやま 水紀行

## 黒部川の湧水に育まれた神秘の孤島

### 杉沢の沢スギ林(入善町)



入善町吉原地区の海岸にほど近い水田地帯の一角に、樹木が密生した林が孤島の様に浮かぶ。「杉沢」と称されるこの林は、独特の生態を持つ「沢スギ」が自生していることで知られている。

この辺りは、黒部川扇状地の湧水地帯にあたり、林の中央部にある湧水源は、年中白砂を吹き上げている。水湿地を嫌うスギが、このような沢地に育つのは、常時流れる水が根に酸素を与え続けるからにほかならない。

沢スギは他のスギにはない特徴を持つ。枝には粘りがあり、雪の重みで地面に付くと、そこから根が出て新たな株をつくるのである。平地でこの「伏状現象」が見られるのは、日本でこの沢スギ林ただ一か所。また、タブノキやユズリハなどの暖温帯性植物や、黒部川の氾濫によって山奥から種子が運ばれたと考えられるキンコウカ、オオバツツジなどの山地性植物が生育するなど、その多種多様な植生も全国に類を見ない。

ところで、昭和四十年頃には四十五ヘクタールあった沢スギ林も、その後の圃場整備により今では吉原地区の二・七ヘクタールを残すのみとなった。現在は、地元の人々が間伐したり湧水が流れやすいように溝を掘ったりしてスギの生育を助けている。

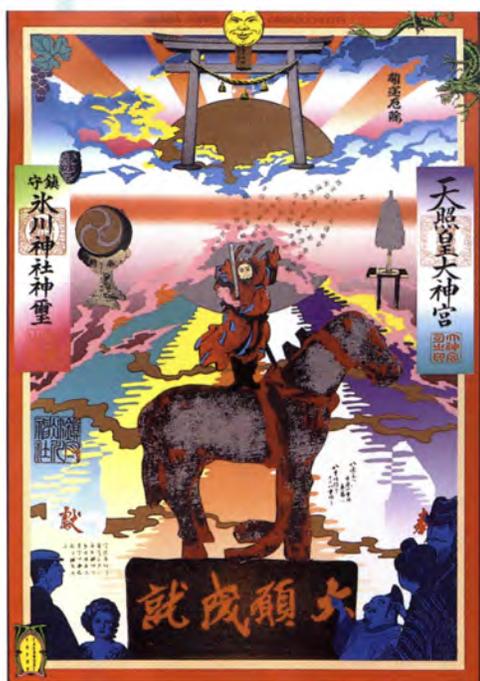
草木が鬱蒼と茂り、曲がりくねった沢スギが交錯する「杉沢の沢スギ林」は、まさに神秘の孤島。清浄で豊かな湧水と林を愛する人々により、沢スギ林は守られ、脈々と生き続けているのである。



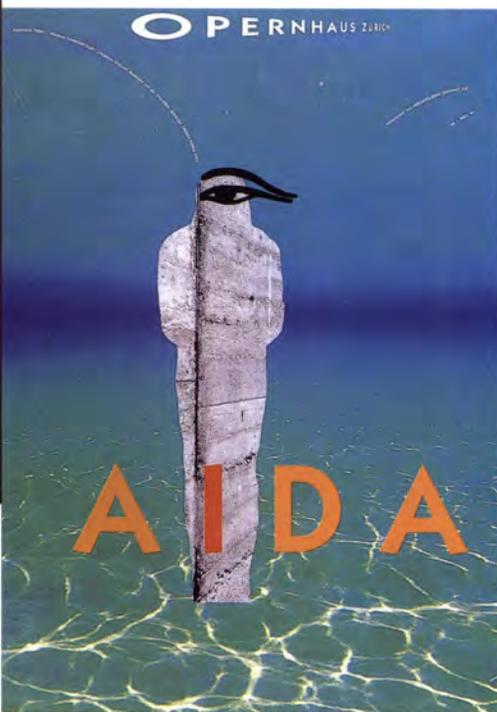
# 第5回

# 世界ポスタートリエンナーレ トヤマ1997

THE 5TH INTERNATIONAL POSTER TRIENNIAL IN TOYAMA 1997



横尾忠則 (日本)



ドメニック・ガイスビューラー (スイス)



ジェイムス・ヴィクトル (アメリカ)

主催・会場／富山県立近代美術館  
 展覧会期／6月28日(土)～9月7日(日)  
 観覧料／一般 950(750円)  
 高校・大学生 700(500円)  
 小・中学生 400(300円)  
 ( )内は20名以上の団体料金  
 お問い合わせ／富山県立近代美術館  
 ☎ 0764(21)7111

「世界ポスタートリエンナーレトヤマ」は、ワルシャワ(ポーランド)、ブルノ(チェコ共和国)、メキシコと並んで世界4大ポスター展の1つに数えられています。

1985年の第1回展以来、3年毎に開催してきたこのポスター展も今年で5回目。今回の公募には、世界52か国から約2200点の作品が寄せられ、審査の結果、入選作品329点が決定しました。本展では、入選作品のなかでも特に質の高いものを中心に展示します。

ポスターは「時代を映す鏡」。本展は、世界のポスターデザインの新しい潮流のみならず、各国の文化や政治、経済の様相を見ることが出来る貴重な機会となることでしょう。